

伝統的な建築 白壁に幾何学模様

美しい町並み残す伝統建築の町・トロワ

高山市では、国際的な観光戦略のために海外に職員を派遣し、国際観光都市「飛騨高山」をPRしています。現在、自治体国際化協会パリ事務所と日本政府観光局香港事務所にそれぞれ1人ずつ、計2人の職員を派遣し、観光情報の提供や国際的な観光展でのPR活動を行っています。

今号では、高山市の工芸作家の作品展を支援したり、高山市との友好交流を始めたトロワ市の情報収集にあたるなど幅広く活動しているフランス派遣職員からトロワ市についてのレポートをご紹介します。



伝統的な木骨組み建築の町並み

みなさんこんにちは！ボンジュール！私は、この4月から2年間(勤)自治体国際化協会パリ事務所に派遣されることになりました野村隆と申します。当地では、同協会の業務に携わりながら、高山市の観光宣伝活動や高山市との友好交流を始めたトロワ市の情報収集など市民のみなさんのお役にたてるよう、「高山市パリ駐在員」としての役割を果たせるよう努めてまいりますので、どうぞよろしくお願ひします。今回は、トロワ市の概要についてみなさんにご紹介したいと思ひます。

トロワは、パリの南東約150キロに位置するシャンパーニュアルデンス州オーブ県の県庁所在地です。地域の形は面白いことに当地名産のシャンパンのコルクに瓜二つで、面積は13・2平方キロ、人口は約6万人です。

トロワの歴史は古く、ローマ時代から栄える伝統ある都市で、9世紀終わりにシャンパーニュ州の首都となり、11世紀ころからは、ヨーロッパ中の商人が集った「シャンパーニュ大市」の開催地として繁栄しました。現在でも貴金属の計量単位として利用されている「トロイオンス」にトロワの名が刻まれていることから、も当時の繁栄をうかがい知ることができるといえます。

トロワは石材に恵まれない地域であったため、町には16世紀ころからの伝統的な木骨組み建築が立ち並び、白い壁に美しい幾何学模様を描いています。また、市内にはサン・ピエール大聖堂をはじめとする、美しい教会が点在しています。この町並みは20世紀半ばに失われかけましたが、当時の初代文化大臣が保護を提唱し、美しい町並みが再生しました。

フランスでは歴史的建造物を保存するために、住民には制約が課せられており、特に教会の半径500メートル以内は厳しい制約が設けられています。また、町並み保存のため40年前から助成金制度が設けられており、現在世界遺産の登録を目指しています。

トロワのみならずフランスの地方都市全般にあてはまることですが、日本とは対照的に、中心市街地には活気があふれ、生活に必要な機能が凝縮されており、路面電車などの公共交通機関が充実しています。トロワの商店街では各商店の伝統的な建物の外観を生かしながらも、現代的な内装を整え、魅力的な店づくりをしており、市民や観光客が買い物や食事など各々の時間をゆつたりと過ごしていることが印象的でした。

今後もフランスの地方都市を観察し、高山市にさらなる活気をもたらすようなヒントを見つけて皆様にご報告していきたいと考えています。それでは、さようなら！オ・ルヴォワール！



高山市パリ派遣職員 野村 隆

問合せ先

総務課

35-33133